

社会変動論(国際関係学部)

授業概要

人間と社会の成長過程における生活世界の拡がり、それまで体験し得なかった新たな(異なる)文化との接触を可能にした。文化変容・移民(移住)・貿易などに代表される「国際交流」がその結果である。

そこでこの講座では、そのような状況下での人間のとまどい・差別意識への道のりを「異文化ストレス」現象として社会的に考察したい。国際関係のみならず、人間社会の諸現象を客観的にとらえてみたいという学生の参加を期待する。

授業計画

講義内容は、おおよそ以下のテーマにしたがって進めていくことにしたい。

- * 社会変動とは何か? (「社会変動論」導入編)
- * 社会変動のとらえ方 (「社会変動論」理論編)
- * cultural relativismとethnocentrism (「異文化ストレス」の根源)
- * 近代化とグローバルゼーション (「異文化ストレス」助長要因)
- * 「異文化ストレス」体験 (いくつかのゲームによる実験演習)
- * 日本の国際化社会論 (日本人の「異文化ストレス」)
- * まとめ

教科書 服部慶亘著『ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学』人間の科学社

履修条件 3年生以上。他学科、および短大専攻科の学生の履修も大歓迎!

成績評価

基本的に年数回(2~3回)のレポートを以って成績評価する。ただし、極端なまでに(理由もなく)出席状況の悪い者には単位認定しない。

その他

担当者不在時の連絡事項・質問受付などをインターネットで行いたいと考えているので、アカウントを取得していない学生は、出来るだけアカウントを学内の情報教育センター、またはプロバイダから受けてほしい。今後、インターネットは国際社会の激変に対応する必須ツールとなる。なお、学内でアカウントを取得するのは無料である。